

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鳥取市立醇風小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	2	15	24
児童数	65	50	57	74	69	69	6	390	

研究の概要

1. 研究主題

<p>豊かな心をもち、自ら考え、共に学び合う子どもの育成          ~ 聞く・話す力を根底に、学び方・学ぶ意欲・学び合いの力を          伸ばす指導法の工夫改善 ~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年(1年~6年)</li> <li>・算数の教科を中心に (授業改善、ドリル学習の研究実践)</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に学び合う子どもの育成と 基礎基本の定着を目指した授業改善</li> </ul> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業実践を中心にすえ、個に応じた指導の工夫をしていけば、仲間と共に学ぶ楽しさを感じながら、自ら課題を持ち主体的に解決していく学びの力をつけることができるであろうと考えた。</li> <li>・仲間と共に繰り返し学習することで、できる喜びをもたせれば、基礎基本の力が身につき自ら学ぶ力や意欲が育つだろうと考えた。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 授業改善</p> <p>学習の段階的な指導</p> <p>児童の主体的な算数活動を進めるために自ら考え、共に学び合う場を組み入れた。</p>
--------	--

課題把握、見通し、自力解決、学び合い、学習のまとめ、練習・習熟という学習の段階の学び方とノートの書き方を「学習のてびき」とした。

個に応じた少人数指導とTTの活用

1年では主にTT、2年以上は少人数指導を中心として実施した。

単元や児童の実態により、少人数編成を工夫した。

学習意欲を高めるための課題提示の工夫

多様な発想が生まれやすく、実体験の多い算数的活動ができるような課題提示をした。

評価の工夫と指導計画への位置づけ

日頃の授業実践や授業研究を進める中で、評価を指導へ生かすための工夫を積み重ねる。

(2) 基礎基本の定着

はげみ学習(毎日13:50~14:00)

計算の速さや漢字習得の個人差に応じた繰り返し練習

授業の中での5問・10問テストの実施

朗読会と今月の詩

話型の徹底

授業中、子ども同士の発表にも生かすよう常に意識させた。

(3) 学習環境づくり

算数コーナーの新設

授業の中だけでなく、日常生活の中でも算数に親しめる機会を増やし、学習の基盤を広げていくことをねらいとした。

学習習慣に関するアンケート

家庭学習の充実は学力を高める一つの方策となるはずである。そこで、家庭学習の実態把握をし、その実態を分析し、保護者に向け啓発を行った。

平成  
16  
年  
度

テーマ

～ 聞く・話す力を根底に、学び方・学ぶ意欲・学び合いの力を  
伸ばす指導法の工夫改善 ～

研究の見通し

- ・個に応じた算数の授業改善の工夫をしていけば、自ら課題を持ち主体的に解決していく学びの力をつけるであろう。
- ・仲間と共に繰り返し学習することで基礎基本の力が身につき、自ら学ぶ意欲が育つだろう。
- ・家庭との連携を深めた取り組みをすれば、好ましい学習習慣が身につくであろう。

研究の内容・方法

算数科の授業研究の充実

少人数指導の充実

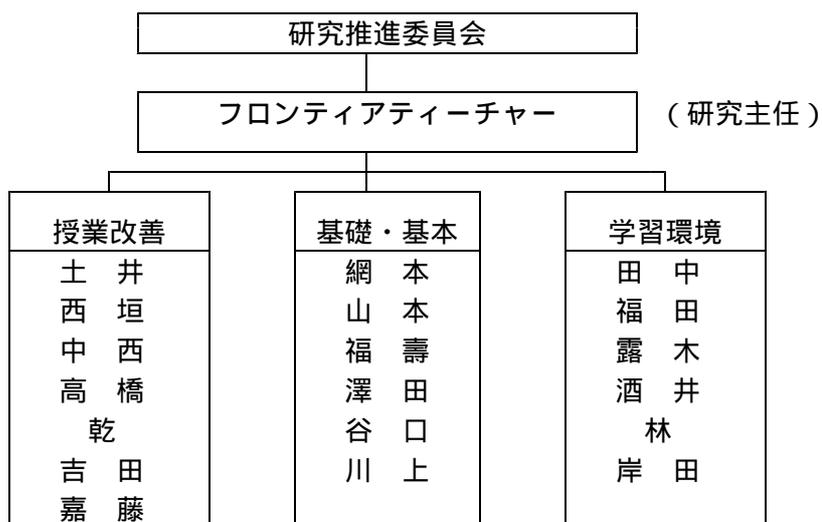
朝の読書、朗読会の充実向上に向けた取り組み

はげみタイムの充実

(3) 研究推進体制

研究体制及び組織

- ・全職員で組織する。
- ・学年部、専門部を中心にした研究を推進する。



授業研究

- 全体研（講師招へい）
  - 学力向上-----低・中・高（3回）
  - 同和教育-----低・中・高（3回）
  - 障害児教育-----わかば・こぼと（1回）
- グループ研
  - 全体研をしなかった学級

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

単位時間の学習の流れが身についてきて、主体的に学習に向かう児童が増えてきた。少人数指導やTT授業の形態も習熟度別や課題別、支援のあり方など工夫を重ねてきた結果、確かな学力が身につくとともに、高め合う学習集団が育ってきている。また、多様な少人数編成をすることで刺激し合い、好ましい関わりを持つことによって、楽しくなってきたと感じる児童が多くなってきた。評価のあり方を工夫し積み重ねることによって、指導の見直しを図り、個に応じた適切な支援をすることができるようになってきた。

## 2. 今後の課題

- ・個の実態に応じた少人数指導の工夫
- ・算数科の授業改善にむけた授業研究
- ・児童の自主的な学習習慣、学習態度の育成
- ・評価の生かし方の工夫
- ・アンケート結果にもとづく改善のための具体的方策
- ・教科学習の場での「話す力・聞く力」を高める手だて

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・学習習慣アンケート（6月） - 児童の家庭学習習慣や学習環境を把握
- ・基礎学力調査（1月） - 基礎学力の実態把握をし、確かな学力の定着や指導への手がかり
- ・診断テスト（国・算）（2月） - 児童の学習定着状況の把握

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究内容や成果をホームページで公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】      ■ 15年度からの新規校      □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】              □ 6学級以下              □ 7～12学級  
                                ■ 13～18学級              □ 19～24学級  
                                □ 25学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導              ■ T・Tによる指導  
                                □ 一部教科担任制          □ その他
- 【研究教科】              □ 国語              □ 社会              ■ 算数              □ 理科  
                                □ 生活              □ 音楽              □ 図画工作      □ 家庭  
                                □ 体育              □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有              □ 無